

そらこめ通信

No.71 2016年6月号

このたびは弊社の米をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。日頃よりご愛顧頂いております皆様にはこの場を借りて厚くお礼を申し上げます。

雪に閉ざされる期間が長い北海道では、残雪の中、3月初旬から除雪作業を皮切りに育苗ハウスの組み立てが始まり、4月には種まき、5月の声を聞くころにはトラクターによる耕起作業と肥料の散布そして代掻きと、一息つく間もなく作業に追われます。5月下旬からは、それら一連の春作業の総仕上げとして田植えが始まり、稲作農家にとってはシーズン前半の天王山ともいべき繁忙期を迎えます。

弊社では5月19日から今年の田植え作業を開始、天候にも恵まれて26日午前中までに全ての作業を終えることができました。今年の稲の作付面積は全部で26ha余り。田植え期間中にあっては5月とは思えぬほど暖かい日が続いたおかげで、苗の方もすっかり圃場に根を下ろし、着実に成長しているようです。

ホームページの生産日誌にも載せましたが、5月25日に海外の視察団一行が弊社にやってきました。弊社の農場を訪れたのはフィリピンで農業機械のレンタル事業などを行っている「ARMLD」のメンバー4名と、彼らをサポートしている日本のNPO法人「GLMI」のメンバーたち。世界でも有数のコメの消費国であるフィリピンは、稲作など農業分野での機械化が進んでいないためにコメの生産性が低く、自国で消費するコメを自給できていないという問題を抱えているのだとか。「ARMLD」は、それらの問題を打開するために日本のNPOなどがフィリピン国内で立ち上げたプロジェクトなのだそうです。今回、彼らは、主に神奈川県や埼玉県、北海道などの農業機械先進地を視察するために10日間の日程で来日されたようです。ほんの少しですが、お役にたてたのなら嬉しい限りです。



霜が降りた4月30日早朝の育苗ハウス周辺～7度に保たれたハウスの中では発芽したばかりの苗が小さな水滴を付けておりました



田起こしのようす(5月2日)

肥料の散布～土壌検査の結果を元に有機を多く含む肥料などを入れています(5月6日)



代掻きのようす(5月8日)



田植えが始まりました(5月19日)



田植え作業の最盛期(5月21日)



田植え機を操るのは拓哉さん(5月21日)



苗の補充作業(中)と苗取りが進む育苗ハウス(右)(5月21日)



フィリピンの視察団一行が来社(5月25日)



機械化農業について理解して頂くため田植え機に体験試乗して頂きました(5月25日)



機械を操作しながらカメラにピース(笑)



視察メンバーと共に記念撮影をしました



メンバーから視察のお礼の品を頂く木村社長

日本の農業機械の先進性については目を見張るものがあります。特に、稲作用の機械は精密機械そのもの。当然、値段も高価です。それらの機械を使うことにより、農作業の効率化が図られて収量などがアップしているのは事実ですが、反面、高コストになり農産物価格の競争性においてマイナスに作用しているという現実があります。フィリピンのように機械化が進まないのも問題ですが、進みすぎるのも悩ましいところではあります。

インターネットで美味しいお米!

(株)空知こめ工房 ホームページ
<http://www.sorachi-kome.jp/>
ブログ「生産日誌」更新中です